

尊い犠牲と残された両親の苦しみから

～章南中学ボート転覆事故に関する請願について～

今年6月18日に起きた豊橋市立章南中学校自然体験学習におけるボート転覆事故で中学生の、若い一つの生命が失われた。その亡くなられた中学生のご両親が、この度事故の真相解明と学校教育の安全対策を講じるよう豊橋市に要望され、豊橋市議会に対しては請願署名運動を始められた。ぜひ請願趣旨にご理解いただき、署名にご参加いただきたいと切に願っております。新聞報道にあった教育長の「これは人災だ」のことは豊橋市民の多くは共鳴した。事故に対して大きな憤りを感じた。事実関係を明らかにして、二度とこのような悲しい事故が起きないように再発防止対策を講じること、そしてその説明を求めた。ところが事故から既に4ヵ月半が過ぎるというのにその説明責任は果たされていない。

「時が苦しみを癒す」と言われるが、それはその理由(事実関係)を知って、それを受け入れていくことで癒される。事実を知らされないいまの西野さんにとっては苦しみが増すばかりであるだろう。

この請願でいう真相解明は、例えば引率した教師の法的責任を追求するという個人を糾弾するものではない。学校教育の現場において二度とこのような悲しい事故が起きないように、娘の死を学校教育の現場に教訓として生かしてほしい。それには娘がなぜ死ななくてはならなかったのか、その真相を解明しなくては学校教育の安全対策は講じられないだろう、という思いから発せられている。そうすることが娘の供養になる。一人娘を失ったご両親の、深い悲しみと悔しさからやっとの思いで這い上がり、客観的な立場に立たれた提言である。豊橋市と豊橋市議会は二度とこのような悲しい事故を起こさないために彼らの提言を謙虚に、そして重く受け止めこの事故の真相解明と安全対策を講じてほしい。そしてそのすべての情報を、ご両親は当然のこと豊橋住民に公開すべきである。

亡くなられた中学生のお父さん、西野友章さんが10月12日に佐原市長に提出した要望書の回答には、「豊橋市は、この事故は静岡県の問題であるから静岡県警に協力する」という立場を堅持している。自ら原因究明をすることは明記されず、今後も「協力していく」という表現に留まっている。お父さんが要望したのは、それではないだろう。豊橋市は西野さんの要望した論点を正しく捉えていない。お父さんが要望したのは「娘は豊橋市立の中学校へ登校しそのまま帰らなくなった。」そこにある事実を求めているのだ。娘が通う学校になにがあったのか、それを調べてほしい。そしてそこにある問題点を明らかにして改善策を講じてほしい、と訴えているのだ。豊橋市は、教育委員会が情報収集したのを待つのではなく積極的に自ら収集し事実の究明を行うべき

だ。百歩譲って、少なくとも教育委員会が情報収集したのであれば、それを持って西野さんに説明するのが行政の当然の対応であろう。

豊橋市議会も、西野さんの請願運動を待つまでもなく、委員会を設置すべきである。現場の教師に事情を聞くなどして、自らが学校教育の現場にあった問題点を明らかにしたうえで改善策を講じるべきだ。住民の生活の安全と安心を計るのは議員の職務であろう。西野友章さんが豊橋議長に電話で申し入れたところ、「議会は原因究明の場ではない」と議長は一蹴した。前述したように西野さんは、個人の刑事責任を求めているのではない。西野さんご両親は請願趣旨に次のように述べている。

「どうしてなんの落ち度もない娘が、学校教育の場でいのちをなくしてしまったのか、悲しくて悔しい気持ちでいっぱいです。

今、私たちに何ができるのか、何をしなければならぬのかを考えた時、12歳の若い尊い命がなぜ失われることになってしまったのか、その原因を明らかにして、このような悲しい出来事を二度と繰り返さないようにすることだと考えました。また、こどものいのちを預かる学校教育の責任は、非常に重い事を再認識してもらうために、力を尽くすことだと思いました。豊橋市におかれましては、今教育の現場でどんなことが行なわれているのか、どこに問題があったのかについて徹底的に調査をしていただき、豊橋市の学校教育が安全で安心なものになるよう対策を講じていただくことを切望します」と。

西野さんのところには現在もお豊橋市から具体的な情報は届いていない。11月7日、日曜日の午後、西野友章さん自ら豊橋駅前に立ち署名を求める予定である。

「豊橋の情報公開をすすめる会」会員 奥宮芳子

(個人的に西野さんご両親と交流ある立場から)

署名用紙をお求めの方は 0532-54-7305 (奥宮)までご連絡ください。